
短篇集「青い菜」

羽海野涉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短篇集「青い栄」

【Zコード】

Z3545U

【作者名】

羽海野涉

【あらすじ】

青春もあり恋愛もありライトノベルもありの言わば何でもありの短篇集です。

ページに青い栞を挟んで。

私の手からその鳥達は飛び立っていく。それは儂く幻に等しい。羽ばたいていく白い鳥達。どこまでも果てしなく。果てない空へ。けれどそれは私の生み出したものなんだ。

私は窓辺に座り本を開く。青い栞を挟んで。何ページも費やして綴られた僕らの物語、私の物語はいまこの場で終結していく。どんな物語だろうと、私が生み出したものにはかわりはない。

そしてコーヒーを飲む午後のひとときに。私はページを捲り振り返る。

あの記述を。

恋するコメ。

桜吹雪が舞う、暖かい陽気の新学期の頃。僕がもし“あの”場所に行かなかつたのならば、今、現在。僕はこのような気持ちを抱いていなかつた。

まず、あの人のことを探りえなかつた。

話もしなかつた。

そして。

好きにもならなかつた。

僕は今、吹奏楽部の部室で一人で楽器をケースから出している。自分で買ったトランペットだ。汚れも傷もまだついていない。僕はその楽器にマウスピースを付けて、唇に当て、音を出す。その音は湿つている梅雨の季節の空気を一掃するかのように部室に響いた。

「おーっす、とおるんが一番乗り？早いじゃん」

僕はトランペットを唇から外し、後ろを向いた。扉を開けて入ってきたのは僕の先輩の藤原優先輩だ。先輩は背中からリュックを下ろし近くにあつた机の上に置いた。そして左手に持つていたケースを開き楽器を取り出す。

とおるんというのには僕のあだ名で、僕の名前は大塚透という。この吹奏楽部の一年生でトランペット担当。一年前までトランペットに触つたこともなかつた初心者だ。因みに藤原先輩は二年生で前期には生徒会役員だった秀才で僕と同じトランペット担当だ。

「何かそうみたいですよ。あ、あとこの曲のこの部分がわかんないんですけど一度吹いてもらつてもいいですかね？」

「ああ、自由曲のか？いいけど」

僕は目の前にある譜面台から課題曲の譜面を取り先輩に渡した。

そして先輩は

トランペットを顔の前に構え、息を吸い、音を出す。

曲はガーシュイン作曲「ラプソディ・イン・ブルー」。

先輩はその軽快なメロディーを麻の湿った空気で埋め尽くされて
いる部室に響かした。そして、先輩はその部分を吹き終えた。

「これでいいか？覚えろよ！大会は一ヶ月後だ」

「分かってますよ先輩。田指すは全国ですよね？」

「勿論」

「了解です」

僕は先輩から返された譜面を譜面台に戻してトランペッタを構え、
今先輩にやつてもらつたところを吹いた。

軽快なメロディーがもう一度この部室に響く。

そして先輩のパートのメロディーも合わせる。

そして、吹き終わった。

「おっ、丁度だ。片付けの時間だよ、とおるん

「そうですね、じゃあ片付けますか」

僕は七時三十分と針が刺された時計を見て、ケースにトランペッ
トをしまつ。

そして僕は部室を出た。

安全つてなあに？

「この地球に安全な場所なんて無いもの

その少女は私にそう呴いた。あの事件を予測していたかのようだ。

私の好きな、いや好きだった東京の街。青春の日々を駆けた街。

でもその街は去年、私の同級生、いや敵が破壊を仕掛けた。

その敵が今度は私の“今”好きな街を破壊しようとしている。

皮肉だ。渋谷に続きこの博多を破壊しようとするなんて。

「ふざけないで」

私の好きな街。好きだった街を何個奪えればあいつは気が済むんだ

う。なんて。

私の好きだった彼はあいつに奪われた。しかも十一月二十一日に。

最低。

私の好きだった本はあいつに燃やされた。シリーズ全巻も、灰となつた。

私の好きだった友達は駿され去つていった。一人残つたのが幸いだつた。

そして。

私の好きだった街はあいつに破壊され“かけた”。

そしてまた。

私の好きな街を破壊“しようとしている”。

「まあしかたないや。この地球に安全な場所なんて無いからね」「私は立ち上がり、懐に入つている彼女の写真を取つて呴いた。

「ねつ」

街は朝焼けに染まつていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3545u/>

短篇集「青い朧」

2011年10月9日09時02分発行